

義に積極的

2012年5月12日

ドン・フイント(引用)

だいぶ以前に、義に積極的でなければ、わたしは悪に流れてしまうということが分かりました。イエシュア(イエス様)は私たちの罪を取り去り、神様の義を与えて下さったのです。「キリストは聖なるものとされる人々を…永遠に全うされたのです。」(ヘブル 10 章 14 節)この中の最初の部分、「聖なるものとされる」に注目したいと思います。

わたしが神の神聖さを味わい、イエシュアのようになってこの使命のフルコースを満喫したいと思うなら、常にイエシュア(という金型: 訳者注)に(プラスチック成形するように: 訳者注)圧入していかなければ、私の内に世が押し込まれてき、わたしの中にある主の御性質は、明るさをどんどん失っていきます。

もし私が祈りの人でなかったら、心配や暗い考えが、私に注入されてくるのです。もし私が聖霊の声や、うながしを注意深く聞かなければ、私の自分勝手な声や、敵の声が私を支配してしまいます。

悪霊の軍団は、空っぽの家を侵略すべく待ち構えているのです(マタイ 12 章 43~45 節)。私はイエシュア自身とその聖霊に、100%、留まっていなければなりません。強力な、神にあって積極的な男女だけが、「御国を奪い取る」ことができるのです(マタイ 11 章 12 節)。「それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです」(ピリピ 3 章 12 節)私はそうなりたいのです。

記事の全文はこちらを[クリック](#)ください。

フランスの選挙とアリヤー(帰還者)

フランスの大統領選が行なわれ、ニコラス・サルコジが社会党のフランソワ・オランド候補に破れ去った今、反ユダヤ思想の恐れが高まってきており、ユダヤ人たちの間でイスラエルへの移住に対する関心が高まってきています。サルコジ氏の祖父はハンガリーのユダヤ系貴族でカトリック教徒の女性と結婚するため改宗した方でした。フランスには約48万3千人のユダヤ人がいます。先週末フランスでユダヤ人協会により毎年行なわれるアリヤー会議(訳注:ユダヤ人として約束の地、イスラエルに移住する人を帰還者=ヘブライ語でアリヤーと呼びます)で、記録的な5千人の参加者がありました。そのうちの百人は移住する準備としてイスラエルにマンションを購入しました。

イスラエル連立政権

先週の火曜日イスラエル国民は、シャウル・モファズの率いるカディマ党(訳注:前進を意味するイスラエルの政党)がリクード党(訳注:団結を意味)ベニヤミン・ネタニヤフの率いる連立政権に参加するという驚くべき、また劇的な政治取引のニュースで眼を覚めました。この新しい連立は正に前例のない 120 議席中 94 議席を獲得し、ネタニヤフ政権に確固たる力を与える事となりました。

この取引の動機は政治的目論見によるものと思われるものの、今までの連立をより拡大し、より穏健でより安定したものになる事は、この国にとって利益となることが予想されます。この国が抱えている種々の難しい問題に、より良く対処できるようになります。

いくつかの事情により、この突然の方向転換が導かれました。イスラエル最高裁判所は、政府がベテル入植地の5軒の家屋を解体するよう判断を下し、リクード党の過激な一派がネタニヤフの党首としての資質を問い、カディマ党の支持率の激減があり、そして選挙および徴兵制に関する改革の必要性が広く叫ばれています。

五旬節の祈り

アヴィハイ・オレル

五旬節を迎えようとしている今、イエシュアが天に昇られ、弟子たちが一晩中祈っていた(私たちはそう信じています)後に、何が起こったかを思い出してみましよう。そうです、聖霊の油注ぎがありました。使徒の働き 2 章 16 節には、ペテロがヨエル 2 章 28 節から引用して、そのとき起こったことがヨエルの預言の成就であった事を宣言していますが、それで終わってしまったのでしょうか。聖霊はすべての人に注がれたのでしょうか、もちろん違います。弟子たちが経験したことは、これから先に起こるべき事のほんのサンプルだったのです。

この目的のために、私たちは、そのことが起こるその日まで、初期の弟子たちがやったように私たち自身の心を準備しておくのです。5月26日七週の祭りの夜、午後6時から(日本時間翌日夜1時)、私たちの祈禱院「ミシュカン・エロハイ」(我が神の住まわれる場所)にて12時間の断食、祈り、賛美、執りなしの夕べを行います。神様がすべての人に聖霊を注いで下さるよう一晩中祈ります、そしてその事が実現するまで私たちは祈り続けます！

詳細はこちらをクリックください。<http://www.mishkanelohai.org/shavuot/>

アシェル、アメリカへ

どうぞ今週のアシエルのアメリカ旅行のため、お祈りください。メリーランド州シルバースプリングのインマヌエル教会、メリーランド州フレデリックのエルシャッドイ・コングリゲーション、カンザスシティの IHOP で行なわれる *the Israel and the Church in the Last Days conference* (終わりの時におけるイスラエルと教会会議) にてメッセージを取り次ぎます。

3 人のエリヤ

アシェル・イントレータ

イエシュアが山で変容された出来事の後、弟子たちは預言者エリヤについて訊ねました。イエシュアの答えには、エリヤに関する聖書的預言をみる3つの方法が提示され、それにはその他の聖書預言についても適用できる「3重」の解釈のパターンを教えられたのです。

マタイ 17 章 11～13 節

イエスは答えて言われた。「エリヤが来て、すべてのことを立て直すのです。しかし、わたしは言います。エリヤはもうすでに来たのです。ところが彼らはエリヤを認めようとせず…」そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと気づいた。

つまり、第1列王記の存在した預言者エリヤがおり、洗礼者ヨハネがおり、終わりの時にはエリヤのようなタイプの人物が現われるのです。過去があり、現在があり、そして未来における聖書預言の数々の成就があるのです。

このパターンというのは、神様の契約と御国の発展という事を考えるにあたって、とても核心を突いたものなのです。イスラエルの民の時代から、教会時代、そして千年王国へという時の流れがあります。エリヤはイスラエルの罪に汚れた王たちを糾弾しました。ヨハネは福音の知らせを紹介しました。エリヤのような預言者、あるいは預言的なミニストリーが現われ、主の再臨のため道を整えます (マラキ 4 章 5 節)。

また、エルサレムと神殿についても 3 重になった預言があります。まずソロモンが建てた神殿があり、イエシュアの生きた時代の神殿があり、そして終わりの時の神殿があります。エレミヤの時代、そして紀元 70 年に、エルサレムに対する大きな戦争があり、より大きな戦争が終わりの時に起こります (終わりの時に関するイエシュアの教えの中で、オリーブ山について似たような 3 重構造があります)。

この3重構造による解釈は、「旧約、新約、終わりの時」あるいは「イスラエル、教会、御国」というように定義する事もできます。聖書預言をこのように3重に展開させることは、神様の計画と目的を知る上で、論理的で必然的なパターンなのです。